

して遊ばせました處が、それから大元氣となり、先生又あしたもしませうね、あした私一人で来るなど申しました。此時の保姆の嬉しさ何に譬へん。かくして遂に一人で通園する様になりました。

お話の仕方

(Shedlock: "The Art of Story = Telling" より)

紹介子

一、お話の六ヶ敷さ

私はこれからお話の六ヶ敷い理由を考へて行かうと思ひます。お話は何故六ヶ敷いのでせう、話上手にならうとするには先づこの問題を考へて見る必要があります。この問題をはつきりと解くことさへ出来ればその人は聴^やがて何ういふ風にお話をしたらいいかといふことを自分から工夫して行くことも出来るのであります。

お話は大變六ヶ敷いものです、と斯う切り出して皆さんを先づ脅^{おど}がして置ませう、けれども一

旦話上手にならうと心掛けた方はこの位のこととで辟易して了つてはいけません、六ヶ敷いから用意^{△△}を忘れてはならないのだと御合點下さなければいけません。

乃でお話の六ヶ敷い理由を次に並べ立てゝみませう。

(一)、お話の傍系へ深入りしてはいけぬこと。

短い演劇的のお話、即ち狼が出て來た、少女はそれを知らずに遊んで居るといふやうなお話をする時に、狼が出て來たといふことによつて聞いて居る兒童に或る事件の期待をさせて置いてそのま

、狼の話は續けずに少女は甚麼とを考へてゐたとか花を摘んだとか歌を唱つたとかいつて狼との交渉を何時までも説かずに居ると兒童はもう靜かに聞いて居りません、斯ういふ演劇的のお話はズン／＼筋を運んで了はないといけないのです、それでないと、その興味は確かに半減されて了ひます或る事件を豫想させるとによつて兒童に緊張を強いて置きそれを放り離して他の叙景の話などをゆつくりと話してゐたのでは兒童の注意力が疲勞して了ひます。それで兒童は一旦モジ／＼し始めたらもう駄目です、面白くないといふ氣分が傳染的にひろまつて了ひますのでお話をする人がいくら聲を勵まして焦慮しても更にその効が無いことゝなつて了ふのであります。

叙景や何かのお話をする場合には兒童にそれから何うなるのだらうなぞとお話の先を急いで知ることがらせるやうな暗示を與へてはいけません。

兒童がお話を聞きながら頭の中で川を描き浪を

いろどつて行くことが出来るやうにしんみりと落附かせて置いて話さなければいけません、そうすれば兒童は緊張を強いられませんからのんびりとした心持でお話を聽いて居られるのです。兎に角短い演劇的のお話をする場合は兒童に或る事件を豫想させるやうな暗示を與へて了つてからゆつくり叙景などに入つてお話の傍系を辿つて居るのは失敗を招き易いのであります。

(二)、事情に従つてお話を改作することの危険

お話によつては兒童に分らない個所の含まれて居るものがあります、そういふお話は採用しなければいゝといへばそれまでですがこれを用ひやうとする場合には餘程注意しなければなりません、斯る場合には何うしても或る程度の改作を行ふことが必要となつて來るのでありますがこの餘程手心を要することでありましてうつかり改作を行ふと原作とは異つたまるで別のお話として兒童に覺え込ませて了ふ恐れがあります、これは歴史や

神話から材料を取つた時殊に注意しなければならぬのでありまして不注意な改作を施したお話をすることによつて兒童に間違つた先入を與へて了ふやうなことがあつてはなりません。

(三) 六ヶ敷い言葉を使はないこと。

お話の中には決して六ヶ敷い言葉を交へてはいけません、本筋に關係のないお話をする場合でもなるたけ平易な言葉を選んで用ゐるやうにしなければなりません。兒童に對してお話をする場合故意に生硬な言ひ現し方や耳馴れぬ熟語などを振りはまずやうな非常識を敢てする人は先づあるまいと信じますがつかりすると私達は兒童に理解されないやうな言葉を使ふ場合がないとも限りませんから注意を怠つてなりません、普通名詞なども牛や馬や車位のものは説明の要はありませんが水牛となり河馬となり橋となるそういふものに馴らされてゐない兒童には一寸簡単な説明を添へて話す方が安全であります。

(四) 質問しながら話を進め兒童の注意を惹かうとすることの危険。

一つのお話をするために兒童に質問を發しつつ、漸次そのお話の領域へ兒童を誘つて行く方法がありますがこれは上手に行けば至極結構なのですが多くの場合失敗に終り易いのです、といふのは兒童が却々談話者の豫期して居るやうな答をしないのであります、それですからお話の筋は一向運ばないといふやうな結果に陥るのです、兒童は深く考へずに思ひ附で答へをするのですからお話の筋とは何の關係もないやうなことばかりを言ふものとみなければなりません、それですから質問をする場合には談話者の豫期する以外の答の出さうもない形にまで切り詰めて質問をしなければなりません。

(五) お話が分つたか何うかを知ることの困難。

これは觀察眼が發達して居り又經驗に富んで居れば分ることなのですがそうでないと自分の話し

て居ることを兒童は如何に聞いて居るのであらうかといふことが薩張分らないのであります。兒童は特別に面白さうな顔をしてゐなくつても随分熱心になつてお話に聞入つて居る場合が多いのであります。この呼吸が分らないために初心の談話者は自分のお話が兒童に何の位の程度に於て交渉して居るか分らず大いに話しにくさを經驗するものであります、けれどもこれは注意深い觀察によつて將又經驗の結果によつて兒童が實際如何なる感じを持つて居るかを凡ば推察することが出来るやうになるのであります。

(六)、あまり圖解が多過ぎては反つていけないこと。お話をする時に繪を用ゐることの可否ですがこれは一寸考へ物です、一般に言つて子供の頭腦を混亂させるやうな結果に陥り易いやうに思ひます耳なら耳、眼なら眼と孰方が一方のみに依る方が兒童も注意力を集中させ易い譯であります。この理由からして眼を通して來る説明のために頭腦を

複雑にされることの無い盲人は談話をよく理解するものであります。實驗のため兒童に眼を閉ぢさせて置いてお話をしてゐれば聲のみが演劇的の興味を十分に起し得るものであることを知るでせう。聲といふものは使ひやうによつてはかなり演劇的の力を持つてゐて想像力に訴ふることの出来るものであります。

次手ですから申し上げますが活動寫眞の演劇的價值はかなり大きなものであると私は思ひます。

活動寫眞は實際の演劇的及びお話に取つて代ることは出来ませんが表現の可能性に富んで居る點に於て教育的價值を澤山に持つて居ります、けれども目下の如く卑俗な營業一點張りの活動寫眞會社の提供してくれるフィルムには往々にして教育に害のあるやうな者があるのであります。お話に係して活動寫眞は如何なる點に於て價值を持ち得るかといふにそれは經驗に乏しい兒童に經驗を與へてお話の背景を豊かにして置いてくれるといふ

點にあると思ひます。北極のお話をする場合に兒童がその前に何處かで北極探險のフィルムを見て居るとお話が一段と面白く兒童に聞かれるのであります。けれどもお話を分りよくしやうために繪を用ゐることはよろしくありません、殊に事實を取扱ふお話でなく直接に兒童の想像力に訴へて行くやうなお話をする場合には繪を用ゐることは絶對によろしくありません、一定の繪をつきつけられれば兒童はお話によつて描く氣分なり、世界なりを制限されて了ひます、けれども繪がなければ兒童は各自自由にその想像力によつて繪を頭の中に拵へてゆくのであります。この方が兒童に取つて興味があり又教育的價值があるのであります。それから兒童は談話者と協力して（つまりお話を聞きながら）自分も一つの繪を描く努力に従事して居ることになるのです、然るに繪が提出されて居る場合には兒童の爲すべき仕事に既に果たされて了つたわけとなるのであります。何うですお分り

になりましたらうか。

(七)、あまり微細に立入つて要點を失してはいけません。

これは詳しく申上げるまでもなくお分りのことと思ひます、お話の本筋に關係のない事は無論のこと縱も多少關係のあることでもそれが直接の關係でないかぎりはお話の效果にいゝ影響を與へないやうな細かい事實は省略する方がお話を引締める上に於て非常に効があります。

(八)、説明に過ぎてはいけないこと。

凡庸の談話者が普通よく行ふ所なのですがお話を一から十まで悉く説明しすぎて了つては反つて面白味は薄くなるものであります。お話を話して藝術的な成功を得やうとするならば無論のこと、教育的見地から言つても斯うお話の仕方は有効とは云へません、何故ならばそれでは聽いて居る者の想像力を弱からしめて了ふからであります、一體斯うなお話を兒童に對して行ふのは兒童の想像力

を發達させるといふことが重要な目的となつて居るのであります。それですからお話を聞かせる場合には兒童をしてその想像力を自由に働くことが出来るやうにしてやらなければなりません、従つて前に述べたやうに質問の如き機械的方法によつてお話の効果を考查して居るといふやうなことはよろしくないのであります。材料の嚴選と藝術的表現に十分意を盡すならば説明はなりたけ尠い方がいゝのであります。何故ならばその方が兒童がお話を理解するに必要な事柄を各自の思考力によつて補足して行くことが出来るからであります。ケイラーといふ人が「小供の遊び」といふ本の中で次のやうなことを言つて居ります。

兒童は言葉の眞意を捉へることを必要としな
い、否或る程度に於ける精密の欠乏は兒童の想
像力を非常に強く刺戟する、何故ならば精密の
欠乏が想像力にのびやかな自由としつかりした
獨立とを興へることになるからである。

(九)、最後に兒童の發達して居ない趣味に迎合する
ためにお話の標準を低めるといふことの中に或
る特別な危険が潜んで居ること。

尤もこゝでは教育的見地からのみ申上げて居るから斯ることをいふのでありまして教育といふ側から言ひますと兒童の趣味に迎合しやうとしてお話の標準を無考へに低めるといふことは甚だよろしくないであります。子供の生活に於ても大人の生活に於けると同じやうに弛んだ瞬間あるものでありましてこの時に一寸した軽い趣味のお話が喜ばれるのは申すまでもありませんがこゝにはたゞ學校等で話されるお話に就て申述て居るのであります。

二 お話の要件

話術に於て成功する爲めには演劇的本能と演劇的表現力とが先づ第一の要件であることは言ふまでもないことでありまして若しこれが無いならば

談話者は太したことを爲し得ないのであります。

けれども或る高い理想を持つて居る人々はたゞ是等の要件が備つてゐるだけでは満足出来ないのでありまして尙他の要件をも必要とするのであります。夫等の中で外見の簡單性といふことはかなり重要なことであります、外見の簡單性なぞと半熟な言葉を持ち出しましたがつまり、實際に於ては様々手を盡してゐるにも係らず手を盡してゐることを悟らせないやうにすることといふやうな意味にお取り下さればいいのであります、技巧を隠す技巧なのです。

口演の簡單といふこと、發言の不注意といふことを一緒にして了つて「そして」や「それから」ばかりを連發したり「ええー」なぞといつて言葉を繼いたりするのは甚だよろしくありません。

外見の簡單性は聴き手を聞いてゆかせるために必要なものであります。

談話者の努力があらはに分るやうな話振りは聴

き手に面白い影響を與へません。

ヘンリー、ジェムスがバルザックといふ佛蘭西の小説家に就て講義をした時に、バルザックの作品は彼の思想と飽和して居ないのが欠點であると申したさうですが外見の簡單性が無いといふことはつまりお話の題材が談話者と飽和して居ないわけとなるのであります。談話者がその題材と飽和して居る場合にはお話の仕方が下手であつても聴手を惹き附けるだけの力があります。

この精神こそは著しく談話者に取つても欠くべからざるものであります、一般の談話者がこの精神を感得してお話をするやうになれば確かに話術の上に一つの革命が齎らされるわけであり、従つて教育の方面にも大なる影響を與へることゝなるのであります。

一つのお話を上手に話すためには餘程準備をしなければなりません。

準備のための刻苦といふことは話術の要件であ

ります、お話を準備するには先づそのお話に就て十分考へてみなければなりません、身振りや話の方は後から工夫すればいいのであります。

「兎と龜」のお話を準備するには兎と龜との性格を先づ十分に考へてみて自分が兎の心持にも龜の心持にもなれるやうにならなければなりません、この準備が出来て了ひさへすれば後はもう「兎と龜」とのお話の筋を展開すること、技葉サドイシユ（本筋に左までの關係なき事柄）を挿入して行くこと、細部デに磨きをかけて置くこと等の比較的容易な仕事が残るばかりであります。

學校の先生で話術を研究なさらうとする方は一つのお話を幾度も繰返して十分練習をお重ねになつたならばよろしからうと思ひます。

三 お話の技巧

今までさんざ外見の簡單性などを説いて來て今更急にお話の技巧などといふことを言ふと皆さん

は一寸をかくく感せらるゝかも知れませんがこれは別に外見の簡單性と牴觸することではありません。お話の技巧といふのは聴衆の注意を惹き附けこれを維持して行くべき機械的の策略といふ程の意味なのであります。

お話をするといいことは舞臺に立つて一役を演ずるより遙かに六ヶ敷いことでもあります。第一にお話をする人はお話全體に互つて出て來るすべての人物を一人で受持つてそれらの關係を常に明かに眺めわたして居なければなりません、第二にお話をする人は舞臺が狭いので身振りや運動を行ふにしても全體の釣合を破らない範圍に於て行はなければなりません。役者はよく舞臺以外に於てもお話をする場合には舞臺上の習慣のために大まかな身振りや動作をして往々失敗を招くのであります。

談話者が是非とも行はねばならぬ特別な訓練は聲調の訓練と言語の選擇とでありますが尙この他

に微妙な暗示力の訓練といふことが必要であります。この微妙な暗示力は舞臺には往々にして應用せられない場合があります、それですからこの暗示力は四千五千といふやうな大勢の聴衆を相手とした時にはお話に於ても効を奏さない場合があります。何故ならば斯る場合には全體の聴衆に聞えるやうにと思つて無理に大きな聲を出すのであります、而してこれがお話のためには甚だよろしくないのです、大きな聲はお話の微妙な味を破壊して了ふのであります。

舞臺には登場、退場、脚光、衣裳、相手の役者の顔面表情等種々の便宜がありますがお話には是等のものがありません。従つて一人では等の便宜に相當するだけの努力を爲さなければならぬのであります。お話に於ては何うしたら俳優の有するやうな諸便宜の代用となるやうなことを成し得るでありませんか、それには聴衆に注意力を起させてこれを終まで保たせてゆくやうな技巧を用ゐ

なければなりません、これからその技巧に就て少しく述べることにいたします。

聴衆の注意を惹く方法として先づ第一に數へらるべきものは間を置くことであります。斯ういふと皆さんは何だそんなことも仰有るかも知れませんがこれが實に侮り難い効能を持つて居るのであります。先づ「舌切雀」で例を取つてみますと「慾張りのお婆さんはいろ／＼の寶物が入つて居るに違ひないと思ひながら葛籠の蓋を開けてみましたすると中から出て來たのは――とこゝで間を置くのです――一ツ目小僧、ろくろ首、大入道などといふ怖いお北けでした」といふやうに話すのです。斯ういふ風に話すと兒童は何が来て來たのだらうと思つてその全體の注意を葛籠の中のものに向けて了ひます、即ち兒童の注意を全體的に捉へて了ふことが出来るのであります。この技巧は經驗が積むと漸々巧みになつて來てその効能の著しいことを認めるに至るのであります。呼吸が六

ケ敷い爲めに始めは一寸旨くゆきません、事實私がこの間を置くことの効能を認めるに至つたのも數年間經驗した後のことであつたのであります。

聴衆の注意を惹く他の重要な方法は身振であります、殊に手は非常に役に立つものであります。

手の助けを借りないならばすべての口演は十分で且つ力弱いものとなつて了ふのであります、足や身體全部を以てしてもかなりの程度まで意志を通することが出來ますが就中手が一番効能が多いのであります、私達は手を以て要求を示すことも出來ます、契約を示すことも出來ます。人を招いたり、追ひやつたり、脅したり、嘆願したりすることも出來ます、又好惡を現し、恐怖を現すことも出來ます、更に又歡喜、悲哀、疑ひ、承認、後悔等を現し、大さ、分量、數、時を現すことも出來るのであります、又手は鼓舞したり、制止したり、哀願したりする力をも持つて居るのであります。舌による言語に各國々によつて違ひますが

手による言語はすべての異つた國々の人々は共通であります、それですからお話をする時には是非ともこの身振り殊に手の助けを借りることを忘れてはなりません。

それから又幼い兒童にお話をする時割合に効果のあるのは物眞似——犬、猫、鳥等の動物の鳴聲を巧みに模倣することです、しかしこれは餘程巧みに行はなければなりません、人によつてはいくら練習をしてもまるきり這麼藝當の不得手な人がありますからそういふ人は止めた方がいゝのです、勞して效なきばかりでなく反つて兒童に怪奇グロテスクの感じを起させるので害があるのであります。それから又極く幼い兒童を相手にしてお話をする時にはお話を始める前に兒童の協力を誘致して彼等の注意力を確かにすることもよろしいと思ひます。大勢の兒童を相手にお話をする時私は何時も次のやうな前置きをして彼等の協力を誘致するのであります。

「私は昨夜、大變おもしろい夢を見ました、今お話を始める前に一つその夢のお話をしてみようと思ひます。私は夢に大きな鞆を背負つて○町(そのお話をする場所のある町の名を云ふ)を歩いて居りました。この鞆の中には私が世界中から集めた面白いお話が一ぱい入れてあるのです。私は大きな聲を出して「エ、お話、お話のお話の御用はありませんかな、何處ぞに私のとお話をしづかに聞いて下る方はありませんかなと云つて歩いて行きました、すると可愛い子供が大勢集つて来て私を取巻いて「私達にお話を聞かせて下さい」私達はしづかにお話を聞きます」と言ひました、乃で私は鞆の中からお話を一つ取出して一生懸命になつて話し出しました「昔丹波の大江山といふところに鬼が澤山棲んで居りました……」とこゝまで来ると、私の前の腰掛に坐つてゐるその可愛坊ちゃんによく似た坊ちゃんを私を止めて「ア、そりやア大江山

の酒呑童子のお話だ」と言ひました、乃で私は何か別のお話をしやうと思つて鞆の中から他のお話を取出しました、而して今度は「昔々お爺さんとお婆さんがありました、お爺さんは山に柴刈りにお婆さんは川へ洗濯に行きました、或日お婆さんが川で洗濯をしてゐますと川上から桃が一つ流れて來ました」と話し始めると今度は又その第二列の腰掛に坐つていらつしやる可愛い嬢ちゃんによく似た嬢ちゃんが「アラそのお話なら誰でも知つて居るわ、それは……」此處まで来ると私は一寸黙つて間を置くのであります、すると聽いて居る兒童は皆得意になつて「桃太郎」と叫びます。この前置きを私は二三度試みてみましたが何時も成功いたしました、兒童は非常に勇氣づけられ刺戟されるのです、私は乃で皆さんはいろ／＼なお話を覺えていらしやるので私は非常にうれしうございます、さて私は今日皆さんの未だ聞いたことのない何か新しいお話をし

てみたいと思ひます」といつてお話の本題に入つて行くのであります。斯ういふ風にするると談話者と兒童との間が頗る親密になつて來ますので兒童は談話者に對して一種の興味を持つやうになるのであります。

それから又聽衆の注意を談話者の方に惹附けるのではなく聽衆の注意をそゝまゝ保たして置くことは非常に六ヶ敷いことではありますがこれはお話を一段々と進めて行くためには必要なことであります。兒童はこれによつて今までのお話の筋を眺め返し次の一段に對して用意をすることが出来るのであります。

それから又聽衆の氣分を見て取るといふことも大切なことであります。聽衆の氣分に從つてお話の展開の仕方を違へて行くことが出来ないと聽衆の注意を收攬して行くことが出来ません。

それから又お話を始めると同時に聽衆を捉へて了ふことが必要であります。中間では多少弛んで

も關ひませんが終りへ行つたら又注意して聽衆をしつかりと捉へて了はなくなつてはいけません。

次に示すお話の^{ビギニング}始まりの數例は兒童の注意を

惹くことに於て滅多に失敗することはありません
「昔或處に大きは鬼が居て、洞の中に一人で棲んで居りました」

（スター、ジョルダン「巨人と菓人形」より）

「或るところに錫で出來た兵隊さんが二十五ありました、この兵隊さんは一つの錫の匙を熔して拵へた兵隊さんですから皆兄弟同志なのであります」

（アンダーセン「錫の兵隊さん」より）

「昔或る所に金の蹄鐵を箆めた馬を持つて居る王様がありました」

（アンダーセン「甲蟲」より）

以上の始まりは足童を直ちにお話の中心に連れ込んで了ひます、それですから兒童の注意を散亂せしめないであります。

話の始まりに注意すると同じやうに話の終りにも注意する必要があります、兒童の頭へは、つきりと残るのは何うしても終りの部分なのでありますから終りに注意しないと折角それまで運んで來た骨折が半ば徒勞に歸して了ふのであります。

以上の諸點に注意しつつ、實際に當つて功を積んだならば話上手になることは左まで困難な事實ではないと思ひます。

四 避けたき要素

兒童は家庭に於て兩親又はお友達からお話を聞き、幼稚園や學校に於て保姆なり先生なりからお話を聞きます、私はこの家庭に於て兒童が個人的に聞くお話と幼稚園や學校の課程として兒童が大勢集つて聞くお話との間に區別を設けたいと思つて居ります。何故そんな區別が必要であるかと申しますと兩親やお友達のお話は教育社會のお話とは大分内容に於ても話し振りに於ても異つて居る

からであります、前者の場合には殆んどあらゆる種類の主題を採り用ゐることが出来るのであります、何故ならば兩親なりお友達なりはお話を聞くべき兒童の個人的氣質をよく呑み込んで居りますから自由に取捨をしてお話することが出来るのであります、けれども後者の場合にはあたりまへの兒童には話したくないお話が澤山あります、特別の事情のために又は生れ附きの氣質のために年齢不相應な發達を遂げて居る兒童に話しても左までの惡影響を與へないお話でも通常の發達を成しつつある兒童には努めて避けなければならぬお話があるのであります。通常の兒童に話したくないやうなお話ばかりを取出して次に少しく述べることにいたしませう。

(一) 動機や感情の分拆を取扱つたお話。

内省や分拆に忙しい近代に於ては特に斯ういふお話が多くなつて來て居ります。最近十年この方の文學は內的に傾き過ぎて居る位でありますから

斯る時代に於けるお話に對しては特にこの注意が必要となつて來るのであります、この分拆の傾向は兒童には危険なことであり、兒童は經驗に乏しく、心理學を辨へませんからその分拆が完全に出來やう筈がありません、それですから私達は自分の行動の分拆にのみ屈托して居るやうな兒童には努めて斯ういふ傾向を避けさせ、兼ねて斯る傾向を助長するやうな思想を含んだお話を聞かせないやうにしなければなりません。兒童が如何に内省的になつて居るかを示すために私は私の經驗を次にお話いたします。

或時私の知つて居る女兒が就寢する前に床の上に起き直つたまゝ涙で眼を曇らせながら思ひに沈んで居りました。私が何うしたのですと訊くとその女兒は、

「あたし今日何か悪いことをしたと思ひますの、けれどもその悪いことが何ういふことだつたか少しも思ひ出せません」と答へました、私は慰めな

がら、

「あなたの小さなお手を眼のすぐ前のところへやつてごらんさい、お手の他には何も見えないでせう。あなたが今日なさつた事もあまり近くあるため、そればかりが大きく見えて他のことが見えないので、すこし離して見ればそれがよく見えるやうになつて來ます、ですから今夜はもうその事は考へずに又明日の朝考へるとしてお寢みなさい」と言ひました。その女兒は幸に私の言ふことを聞き入れてそのまゝ眠に就きました、而して明日の朝になつたらもう昨夜病的に悩んでゐた問題を忘れ去つて居りました。

(二)、諷刺の利き過ぎて居るお話。

際立つた諷刺といふものは兒童の手に置くべくあまりによく磨かれた、従つて危険な刃物であります。何故ならば分拆の場合にも申したやうに兒童は物事の真相を捉へることが出來ません、兒童は一寸見に可笑しいことをたゞ可笑しいと思ふだ

けで、その可笑しさの原因を知りません、可笑しいことの底に潜んで居る悲みや慨きを發見することが出来るためには經驗と智識を要するものであります、直覺によつてこれを看取することの出来るのは異常の天賦を受けた兒童か左もなければ大人に限ります。けれども私は又斯ういふことを附加へて置かなければなりません、それはあまり兒童に同情を起させること、即ち悲しいことに對してあまりに情緒を動かさせることは望ましくないといふことであります。私はたゞ兒童が諷刺を用ゐて危険な批評的態度を取るに至らないことを望んで居るのであります、兒童に斯ういふ態度が出て來ますと兒童生活の本質であるべき信任や信念の空氣が著しく破毀せらるゝに至るのであります。

兒童が諷刺に馴らされて了ふと兒童の持つて居る親切心は薄らぎ同情心は漸次影を潜め所謂「小さい子供」となつて了ふのであります。

アンダーセンの「雪姫」「蝶の話」などは今私

が申して居るお話の例でありまして是等のお話は兒童には聞かせたくないであります。

(三) センチメンタルなお話、

感情に走りすぎるやうなお話もまた兒童に聞かせるのはよろしくないと思ひます、全然理智の力を鈍らせて了つて感情によつてのみ動いて行くやうな生活を兒童に暗示するのは甚だ危険なことであります。チエスタートンはセンチメンタリチイ (sentimentality) と云ふを定義して「非常に廣大な美しい表現を要すべき事柄を元氣なく、冷たく、小さく、不十分に言ひ現す仕方」と言つて居ります。

例の通りの皮肉ではありますが半面の眞を語つて居るものとして私達の考へさせられるところがないではありません。私は若い先生方がその口演目録の中に加へられて居るお話をこの定義に當嵌めてお考へ合せにならんことを願つて置きます。

(四) 強烈な感覺的の挿話を含むお話。

多くの兒童が感覺的のお話を好みますので特に

この注意は必要となつて參ります、兒童は斯るお話を抽象的に好みますがそれを具象化して示されると恐れるのであります。

斯ういふ話があります、或時叔母さんが四歳になる甥のお伽をして居りますとその甥は「熊が子どもを食べちまふお話をして頂戴」とせがみました、叔母さんは困つたこと、思ひましたが甥が自分から望む位であるから別に恐しさを感ずることもあるまいと考へ附いたのでそれならばと恐しい血みどろなお話をして聞かせました、いよく怖い段となつて來たとき其子は手を振りながら「ア、叔母ちゃん、熊にその子を食べさせちゃいけないせん」と言ひました。

斯る感覺的の趣味は新聞記事や活動寫眞、その他都會生活等によつて養はれたものでありまして兒童が一旦斯る趣味に馴らされて了ふともう通常のお話には興味を起さなくなつて了ひます。

ケイト、ドオグラス、ウインジが次のやうな意

味のことを何處かで申して居ります、

「お話は兎も角寫實的でなければいけません、けれども又あまり寫實に過ぎてもいけません。石で小鳥を射ち殺した悪い子どものお話は他の子供に石でもつて本當に小鳥が殺せるか何うかと恐しい實驗を試みさせるやうな原因となるといけませんから採用してはなりません。

(五)、兒童の生活以外の事柄を題材としたお話。

兒童生活には見られない事件、例へば戀愛事件などは神秘の衣を着せられて居ない限りはそのまゝ材料として採り用ゐることはあまり好ましくありません、兒童をして年齢不相應に世の中を知らせ所謂させるやうなお話は何うも感心出來ないのであります。大概の大人が自分の幼かつた頃の心持を忘れて了つて兒童の實際好むお話を選擇することが出來ないやうになつて居るのは残念なことであります。

(六)、畏懼若しくは自負に訴へるお話。

現今では兒童の畏懼若しくは自負に訴へるやうなお話は殆んど皆無と云つてもいい位であります。昔はよくこんなお話があつたものであります。昔の兒童はよく斯る種類のお話に満足して居たものだと不審に思はれる位であります、しかし多分是等のお話は兒童の頭に深い印象を止めることなく、現今輕いお話が聞き流しにされて居ると同じやうに兒童に左まで密接な關係を持つてゐたものではありますまい。

一八〇九年頃に發行された「不思議な娘」といふ本から私の今申して居ることの具體的の例を抜萃して見ませう、

「お父うさま、私はお父うさまが私を不満足に思召すやうなことがないことを望みます、何故ならば私は勉強が大好きです、私は終日一生懸命に勉強することが好きで遊ぶことが嫌ひです」

又次のやうな文句もあります、

「まア、お父うさま、私が何時までそんな子供染

みた眞似をすると思召していらつしやるんですか
私はもう十二歳でございます」

斯ういふ考へを持つた人々が兒童にお話をして居たのですからまるで問題になりません。

(七)、誇張した下品な戯れのお話。

一八六九年十二月のマクミランズ、マガジーンの中にジョン嬢が次の様などを書いて居ります、
「道化趣味は絶滅しなければなりません、それは不健全な墮落的の暴行を好んで其他のものを排して行かうとする趣味であります、道化趣味は敬虔の念を破り粗野と化して行くのであります、道化趣味は詩的若しくは想像的のすべてのものを排し、ゆかしきもの哀切なもの、存在を否定するものであります、而して他人が熱誠と情熱とを以て眺めて居るものを嘲笑の材料とします、斯くて道化趣味がより高尚な且つ穩健な調子に立戻ることは絶對的に不可能となり了るのであります」

これは半世紀も前に書かれた記事ですが私は今

日に於て特にこの記事の必要を認めるのでござい
ます。

酔きもの又は獸的なものに對して兒童が強い趣
味を持つて居ることは事實であります、さりとて
斯る趣味に迎合するやうなお話を兒童に提供すべ
きか否かに就ては今更論するまでもなからうと存
じます、悪いことの智識は全然兒童に與へてはな
らぬと考へるわけではありませんが斯る智識はわ
ざ／＼教へ込まなくつても學校の外に於て兒童が
必要以上に覺え込んで來るのであります、それで
すから學校で何も道化趣味を兒童に吹き込む必要
は更に無いのであります。

(八) 幼き敬神及び臨終の景のお話。

この注意は日本ではあまり必要がないかと思ひ
ますが歐米諸國のお話にはよく子供が死んで天國
を往くお話があるのであります、これは悪くする
と薩摩に厭世の感しを起させる場合がないとも
限りませんので死んで天國へ行くことばかりを兒

童に願はせるのはよろしくありません、それより
も生きてゐて大學へ通ふやうになることを願はせ
るやうにした方が實際的でもあり効果的でもある
譯であります兎に角斯ういふお話は餘程手加減を
要するのであります。

(九) お伽話と科學との混合したお話。

こゝでいふお伽話といふのは英語のフエヤリ、
テール(Tail tale)のことでありまして夢幻的のお
話を云のであります、お伽話と科學と、この兩者
は兒童の頭では一致させることが出來ない者であ
ります、若し一つのお話の中にこの兩方の要素を含
んで居るやうな場合がありますならば兩方の要
素はお互ひに相殺して功を爲さいともなりません。

次に掲げるのは英國博物館にある古い印刷物の
中から引き出して來たお話であります。

ジエーン、エスは着物を汚して手をすつかり
疲らして家へ歸つて來まして、「何處へ行つて
ゐたのです」と阿母さんが尋ねました。「水車

小屋の傍の堤から落ちたの、若しかエムさんが儀を見馴れて助けてくれなかつたら僕屹度溺れ死ななやつたに違ひないや」とジエーンが答へました。何んだつて又そんなに堤の際へ行つたのです。「綺麗な花があつて僕をそれが欲しかつたのですもの、チヨイト一足出さうとしたらこつで落ちちやつたのです」

訓言 若き人々は屢々罪深き放縱にたい、一步を踏み入るゝのみ（ジエーンは憐れなる哉！）而かも彼等は身を滅すべき罪惡に陥るなり、世に罪深き快樂ありて若き人々はこれを享け樂まんとす。彼等はたゞ一の罪の行ひによりてそを爲し得べし（花を摘むのいまはしき行ひ！）彼等とを爲さんか、そは又他の罪の行ひに彼等を導く、斯くて彼等は神の助けを得るに非ざれば淪落の淵深く沈さんのみ。

この夢話の馬鹿々々しさは兎も角として、私達はその倫理的根據の薄弱さに呆れざるを得ません

神といふものをこんな低い標準で考へなければならぬといふのは情無い次第であります。今日ならば先生はジエーンが植物學に對して並々ならぬ興味を持つて居ることを褒めてやります、けれども同時に傾斜地を採集地として選ぶことの危険及び引力の法則を丁寧に説き聞かせるであります。

この例には斯うして訓言が附いて居りますが訓言も何も附いてゐず又お話の中に於ても決して斯ういふことに就て言つてゐないお話があります。私は明らかにこの教訓を説いて居るやうなお話は結構なお話であるとは思ひません、眞向から教訓を振り翳して行つたのでは兒童は又かといふやうな感じを起しますので反つて實際には利き目がないのであります。

ジョオン、バアロオが「文學的價值」の中で「説教する勿れ」といふ題で次のやうなことを言つて居ります。

教訓小説は決して高い地位を占め得るもので

はない、汝は説教や教訓をしてはならぬ、汝はたゞ創造し宇宙の如く將又自然の如く目的を有して居る……。藝術の要求する所のものは藝術家の個性的の確信、想念、彼の好惡が少しも現れないといふことであり、善惡が作中に於て事件といふ論理によつて截然と區別せられて居ることである、それは丁度自然に於て爲されつゝあるやうに爲さるべきであつて藝術家の特別な申立によつて爲さるべきものではない、藝術家は善惡いづれにも與しては居ない、藝術家は獨創的エネルギーの仕事为例證する……。偉大なる藝術家は倫理觀念に於て製作し、倫理觀念を通じて製作し、倫理觀念から製作する。その作品は直ちに生活の批判である。藝術家は倫理を持たざる道徳家である。倫理が現れかけて來たならばその時こそ彼は藝術家としての聲譽を墜し始める時である……。藝術の大なる特徴は生活をしつかりと見やうとし、生活を全體として見

やうとする點にある……。藝術は世界が調和的に且つ完全に見えるやうな見地を提供する。

フレーベルはお話の教育的價值を述べてお話の最高の用は兒童をして暗示によつて人は如何なるものにして、如何なることを爲すべきものであるかに就て純なる且つ高尚なる觀念を形造るやうにさせることが出来る點にあるといふことを申しました。

十、最後に避けたいと思ふことは兒童が實際自分の活動に移して行かうとした場合

これを行ふことの出来ないやうな情緒を起させるお話であります、斯るお話は兒童をしてイライラした心持を起さしめ、延いて他の有益な活動を行ふ力を徒費せしめるのであります。斯くヒステリックな影響を兒童に與へるやうなお話は當然避くべきであります。